



2020年3月期 決算説明会

2020年5月29日
フィード・ワン株式会社
東証1部 証券コード：2060



フィード・ワン株式会社 代表取締役社長の山内孝史です。よろしくお願いいたします。

本来であれば決算説明会を開催し、直接ご報告・ご説明させていただくところですが、
新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、動画配信形式にて行わせていただきます。

新型コロナウイルス流行の影響

飼料メーカーの顧客である畜水産事業者は食料の安定供給に重要な役割を担っていることから、農林水産省対策本部より新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び事業継続に関する基本的なガイドライン※が通達されているほか、各種需給緩和対策の支援が実施されている。

※ガイドライン概要

- ◆ 予防対策の徹底
- ◆ 患者発生時の患者、濃厚接触者への対応
- ◆ 施設設備等の消毒の実施
- ◆ 業務の継続

当社業績への影響

- ◆ 現時点で新型コロナウイルスの当社業績に与える影響は軽微と考えておりますが、収束までには時間を要することが想定されます。
そのため、今後の動向により業績予想に修正の必要性が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2

まず、新型コロナウイルス流行における当社への影響についてご説明いたします。

畜水産事業者は食料の安定供給に重要な役割を担っていることから、こちらに示しました様に農林水産省対策本部より新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び事業継続に関する基本的ガイドラインの通達とともに、各種需給緩和対策の支援が実施されております。

現時点で新型コロナウイルスの当社業績に与える影響は軽微と考えておりますが、収束までには時間を要することが想定されます。
そのため、今後の動向により業績予想に修正の必要性が生じた場合には、速やかに開示いたします。

説明項目

- 2020年3月期 決算
- 第2次中期経営計画の進捗
- 2021年3月期 業績予想
- 株式関連事項

3

では、今回の説明項目ですが、まず副社長の野口より「2020年3月期決算」について説明いたします。

その後、私より「第2次中期経営計画の進捗」と「2021年3月期業績予想」、「株式関連事項」をご説明いたします。

では、野口副社長お願いします。

2020年3月期 決算

4

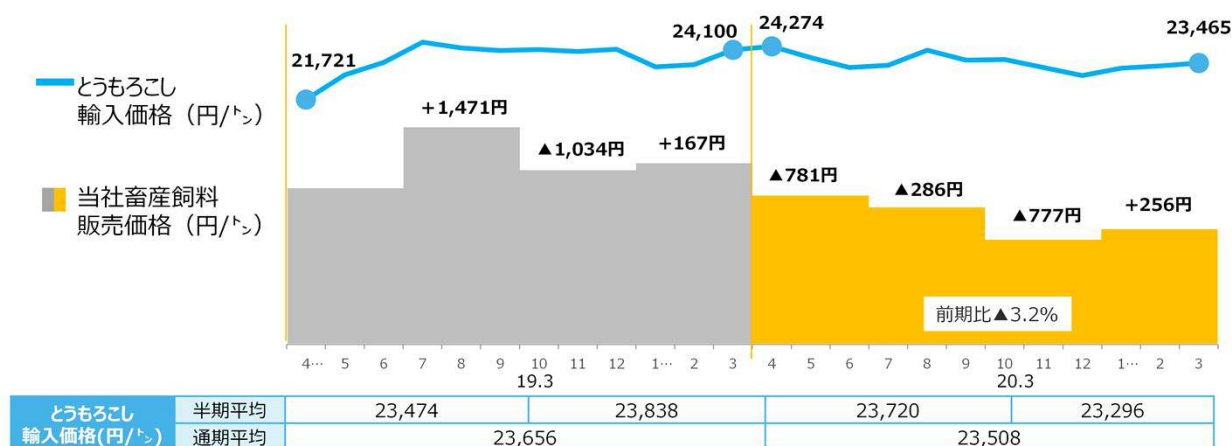
取締役副社長執行役員の野口でございます。よろしくお願いいたします。

それでは2020年3月期決算についてご説明いたします。

畜産飼料の製品価格と原材料相場

畜産飼料の販売価格が低下し粗利益減少

- ▶ 製品原価における原材料費率は8割強
- ▶ 原材料の5割は輸入とうもろこしが占める
- ▶ 畜産飼料の販売価格は原材料相場の変動に合わせて、四半期毎に改定を行う
- ▶ 配合飼料価格安定制度による基金の発動も原材料相場に合わせて、四半期毎に行われる



(出所：財務省貿易統計「品別国別表」のとうもろこし輸入価格)

5

最初に、当社の主力事業であり、売上の75%、利益の90%を占める飼料事業の製品価格と原材料相場について、ご説明いたします。

まず、畜産飼料ですが、製品原価における原材料比率は80%強であり、その50%は輸入とうもろこしが占めております。原料の変動に伴い四半期毎に製品価格の改定を行っております。

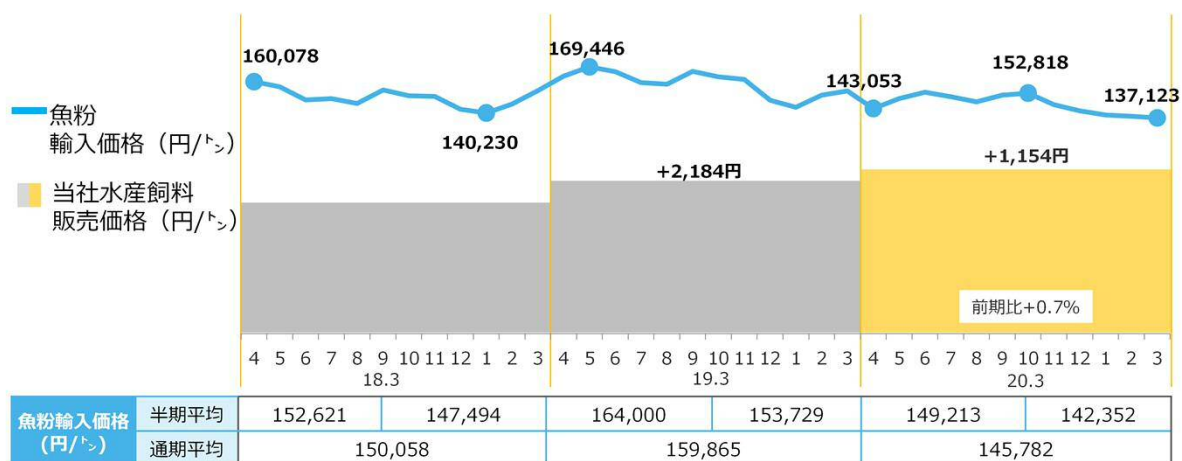
図の青い折れ線グラフがとうもろこしの輸入価格の推移であり、下の棒グラフが販売単価を示しております。

当期は、とうもろこしの輸入平均単価が▲0.6%に対し、製品販売単価が▲3.2%と原料を上回る低下となり、粗利益減少となりました。

水産飼料の製品価格と原材料相場

水産飼料は原価低減により粗利益増加

- ▶ 製品原価における原材料費率は8割強
- ▶ 原材料の4割強は魚粉が占める
- ▶ 定期的な販売価格改定は無く、魚粉相場の大きな変動等に準じて適宜改定を行う



(出所：財務省貿易統計「品別国別表」)

6

続いて、水産飼料の製品価格と原材料相場についてご説明いたします。

水産飼料も畜産飼料と同様に、製品原価における原材料費率は80%強であり、その40%強は魚粉が占めております。

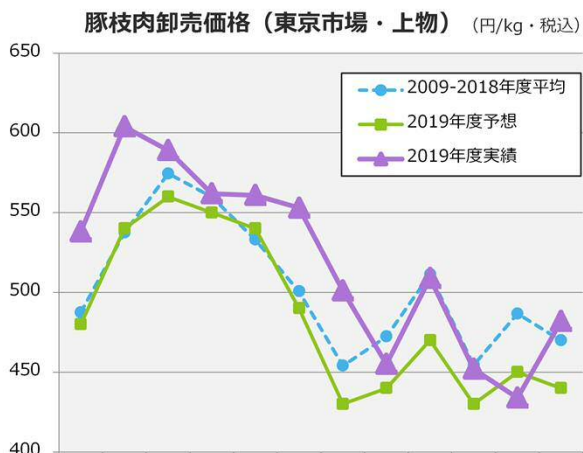
ただし、水産飼料は畜産飼料と違い、定期的な価格改定がないことから、原材料相場を勘案して適宜価格改定を行っております。

図の青い折れ線が示すとおり、2019年3月期に原材料価格が上昇したため価格改定を行い、それが当期にかけて徐々に浸透しました。

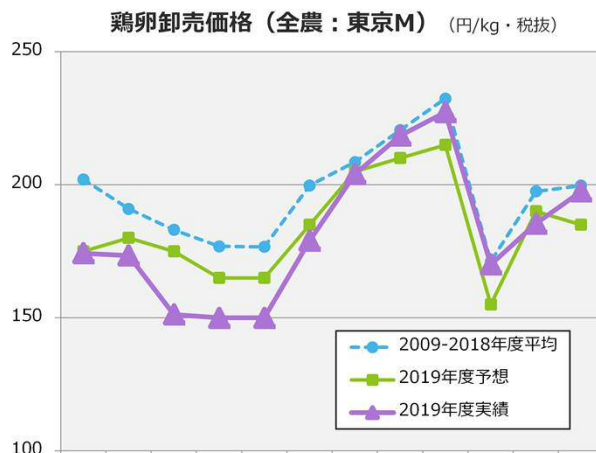
さらに、当期に入り原材料ポジションが改善されたことから、粗利益は増加に転じております。

畜産物の相場状況

豚枝肉は予想より堅調に推移、鶏卵はほぼ予想通りとなった



（出所：農林水産省「食肉流通統計」）



（出所：JA全農たまご(株)調べ）

7

次に、売上の25%、利益の5%を占める食品事業に大きな影響を与える畜産物の相場についてご説明いたします。

当社の食品事業の主な取り扱い畜産物は、豚肉と鶏卵です。左のグラフが豚枝肉相場ですが、通期平均では大きく値を上げており、予想を超える上昇により原価の上昇が粗利益を圧縮する結果となりました。

一方、右のグラフの鶏卵価格については、前半は予想よりも低く、後半は予想を若干上回りましたが、通期では過去10年平均を下回りました。

2020年3月期決算概要

大幅増益で経常利益は中計目標を1年前倒しで達成

(百万円、%)

	2019.3期		2020.3期			
		構成比		構成比	前期比	期初予想
売上高	212,886	100.0	215,050	100.0	+ 1.0	235,300
売上原価	189,757	89.1	191,401	89.0	+ 0.9	210,900
販管費	19,005	8.9	18,234	8.5	▲ 4.1	19,300
営業利益	4,123	1.9	5,414	2.5	+ 31.3	5,100
経常利益	4,466	2.1	5,737	2.7	+ 28.4	5,300
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,657	2.2	3,842	1.8	▲ 17.5	3,600
設備投資	3,811	-	7,934	-	+ 108.2	13,434
減価償却費	2,395	-	2,513	-	+ 4.9	2,532

- 売上高 : 畜産飼料の売価は下落するも水産飼料含め販売数量増加により微増
- 営業利益 : 販売数量増加、畜産飼料の販管費減少、水産飼料の原価低減により増益
- 当期純利益 : 特別利益の減少（前期 関西工場跡地売却等）により減益

8

これまでの相場要因を踏まえて、2020年3月期の決算概要をご説明いたします。

売上高は畜産飼料の製品価格下落により前期比+1.0%と小幅増収にとどまりましたが、販管費の削減により営業利益は前期比+31.3%、経常利益は、同+28.4%の大幅増益となり、史上最高益を達成しました。なお、経常利益については中期経営計画最終年度目標である55億円を1年前倒しで達成しております。

また、当期純利益は予想を上回ったものの、前期には、関西工場跡地売却などの特別利益計上があり、前期比では▲17.5%の減少となりました。

設備投資は79億円と予想を大きく下回りましたが、北九州畜産工場の建設工事がやや遅れていることが要因であり、設備投資計画の変更はございません。

【参考】配合飼料価格安定制度積立金について

配合飼料価格安定制度の現状

- ◆ 2006～2008、2012年度の配合飼料価格高騰時に基金の財源が枯渇し借入を行ったため、現在、配合飼料メーカーが通常補填に積み増しをして返済している
- ◆ 近年は基金の発動が少ないため財源が積みあがっており、積立金減額傾向が続いている

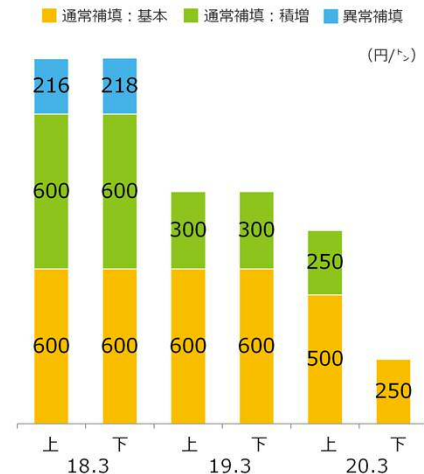
▶ 制度の仕組み（例：2020年3月期3Q）



▶ 発動条件

異常補填基金	輸入原料価格が直前1か年の平均と比べ115%を超えた場合
通常補填基金	輸入原料価格が直前1か年の平均を超えた場合

▶ 積立金推移（飼料メーカー）



それでは、ここからは損益に大きな影響を与えた要因を補足いたします。

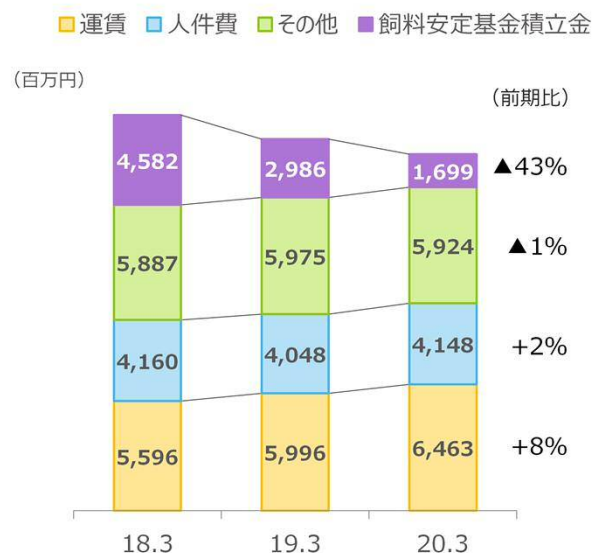
まず、営業利益を大きく押し上げた販管費の削減についてですが、この主な要因は、「配合飼料価格安定制度積立金の減額」であります。

この制度の仕組みや発動条件はこの資料の通りですが、右下のグラフに示すとおり、近年は基金の発動機会が少ないことから財源が積み上がり、積立金減額傾向が続いており、配合飼料メーカー各社の費用の減少につながっております。

販管費・特別損益詳細

販管費

- ◆ 飼料安定基金積立金減額により減少



特別損益

- ◆ 前期関西工場跡地売却により特別利益減

(百万円)

内容	19.3	20.3
関西工場跡地売却※	1,681	0
固定資産売却(※除く)	73	▲ 4
投資有価証券売却	327	106
固定資産除却	▲ 78	▲ 44
減損損失	▲ 125	▲ 4
農場子会社整理	▲ 76	22
その他	▲ 75	▲ 107
合計	1,727	▲ 30

10

当社におきましても、左のグラフの通り、飼料安定基金積立金は、2019年3月期の約30億円から当期は約17億円と前期比▲43%の大幅な減少となっております。
この結果、運賃コスト増などをカバーし、販管費全体でも前期から▲4%減少し、大幅増益につながっております。

続きまして、右側の表で特別損益について説明いたします。

ご覧のとおり、2019年3月期は関西工場跡地売却益と政策投資株の売却益が計上されておりましたが、当期は特筆すべき特損益の計上がなかったことから、当期純利益が前期に比較して減少いたしました。

2020年3月期セグメントの状況

(百万円、%)

		2019.3期	2020.3期			
				前期差	前期比	コメント
飼料事業	売上高	161,026	162,525	1,499	+ 0.9	販売数量増加し増収、 畜産飼料の販管費減少、水産飼料の原 価低減により増益
	セグメント利益	5,723	7,028	1,305	+ 22.8	
食品事業	売上高	49,248	49,791	543	+ 1.1	販売数量増により増収も、原料相場によ る売差減や運賃増により減益
	セグメント利益	442	393	▲ 48	▲ 11.0	
その他	売上高	2,612	2,733	121	+ 4.6	関連資材販売数量増加により増収増益
	セグメント利益	317	361	44	+ 13.9	

販売数量	2019.3期	2020.3期	
		前期比	コメント
畜産飼料	339万トン	348万トン (通期計画：+2%)	牛用+4%、豚用+2%、ブロイラー用▲3%、採卵鶏用+4% (通期計画：牛用+3%、豚用+2%、ブロイラー用+5%、採卵鶏用+1%)
水産飼料	8.5万トン	9.7万トン (通期計画：+11%)	海産魚用+16%、淡水魚用▲4% (通期計画：海水魚用+11%、淡水魚用+16%)

11

次はセグメント別のご説明をさせていただきます。

まず、主力の飼料事業ですが、売上高は、畜産飼料の製品価格下落があったものの、販売数量の増加によりわずかながら増収となりました。

畜産飼料の販売数量は計画の前期比+2%に対し、+3%となりました。

水産飼料の販売数量についても、計画を上回る販売が寄与し計画の+11%に対し、+14%となりました。

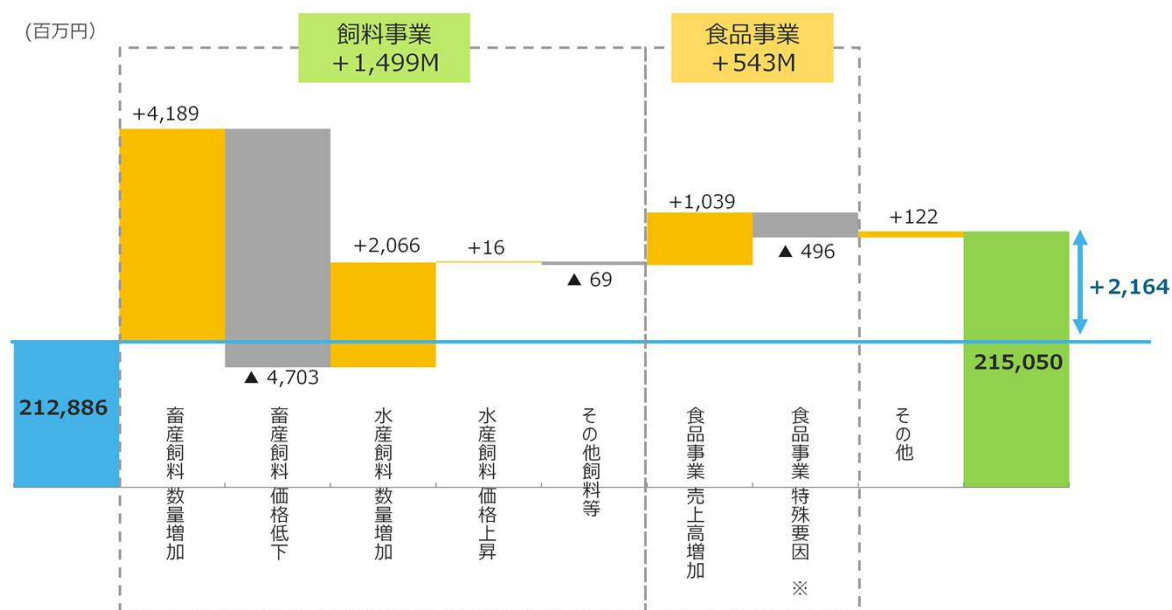
なお、水産飼料の大幅な増加は、水産物相場高騰の影響で消費が低迷、出荷も停滞し養殖中の魚が増加したこと、大手養殖業者への拡販努力が功を奏したことによるものです。

利益については、先ほどご説明した販管費の減少が大きく寄与し、前期比+22.8%の大幅増益となりました。

食品事業については、畜産物、特に豚枝肉の相場上昇と全体の数量増加により増収いたしましたが、豚枝肉相場上昇が原価率を押し上げたため減益となりました。

その他セグメントの増収増益要因は、畜水産関連資材の販売増加によるものです。

売上高 増減要因



※ (株)栗駒ファーム▲220百万円、(株)金成ファーム▲142百万円、(株)東白川ファーム▲133百万円
(3社ともに前期に会社分割・清算)

12

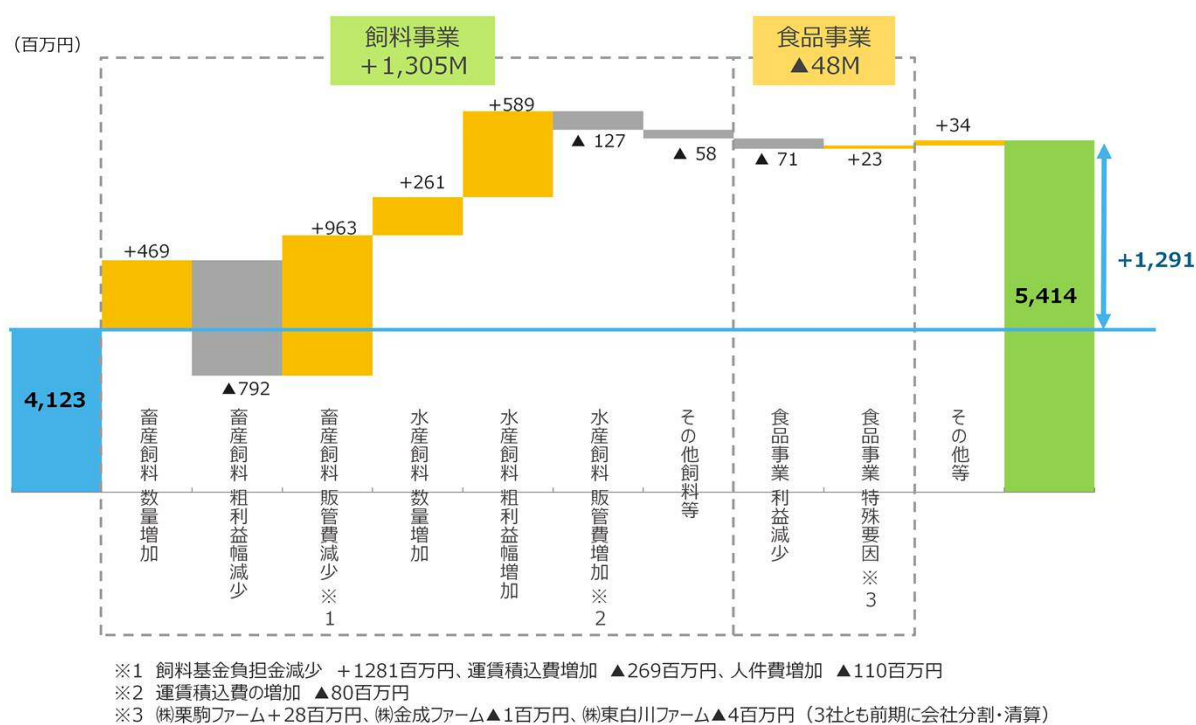
続いて、売上高の増減要因ですが、図の左側の青い棒が前期、右側の緑色の棒が当期であり、前期比+21億円の増加となりました。

内訳は飼料事業で+15億円、食品事業で+5億円の増収となっております。

畜産飼料は、販売価格の低下を販売数量でカバーしきれないものの、水産飼料の販売数量でカバーし増加しました。

食品事業は、販売数量の増加を主因に増収となり、前期、実質的に事業売却した3農場分の売上をカバーしました。

営業利益 増減要因



13

最後に営業利益の増減要因をご説明いたします。

左の青の棒グラフの前期実績に対し、右の緑の棒グラフが当期実績であり、前期比+13億円の増益となりました。この主要因は飼料事業の増益です。

畜産飼料では、販売数量は増加したものの、原料ポジションの悪化による粗利益の低下をカバーできませんでした。しかし、先程ご説明しました販管費の削減により、畜産飼料は+6億円の増益となりました。水産飼料は販売数量の増加と原料ポジションの改善により、+7億円の増益となりました。併せて飼料事業では+13億円の増益を計上いたしました。

以上で、私からの2020年3月期決算の概要ご説明を終了いたします。

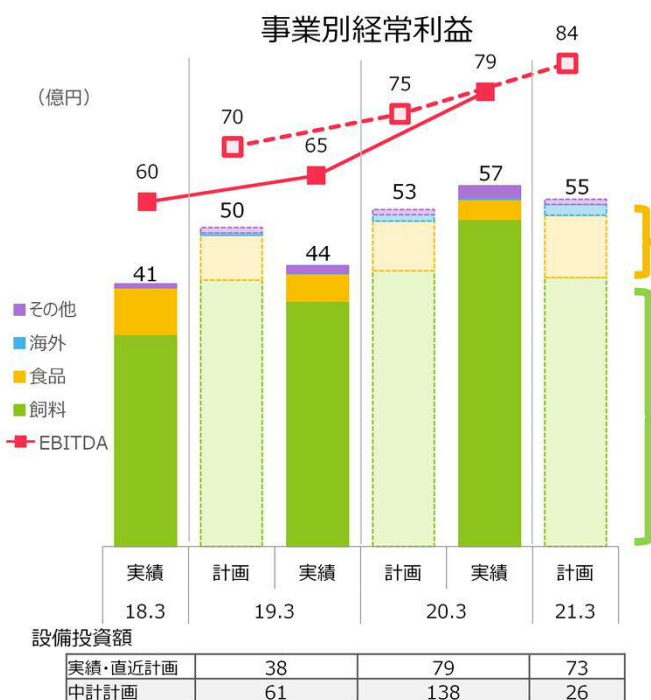
第2次中期経営計画の進捗

14

それでは私より第2次中期経営計画の進捗について説明いたします。

基本方針

更なる経営基盤強化のための『事業ポートフォリオの最適化』



事業戦略

成長事業の拡大

2. 食品事業～ブランド力の強化～

- ◆ 製造・販売体制の再構築
- ◆ 相場取引リスクの低減

3. 海外事業～収益基盤の確立～

- ◆ 販売力の強化

基幹事業の強化

1. 飼料事業～生産設備の基盤強化～

- ◆ 生産設備への積極的投資
- ◆ 生産コストの低減追及

15

第2次中期経営計画の基本方針はさらなる経営基盤強化のための「事業ポートフォリオの最適化」としています。

経常利益は各年50、53、55億円を計画としており、2019年3月期は計画を下回りましたが、2020年3月期の経常利益は計画を達成、中期経営計画の最終年度目標55億円を1年前倒しで達成いたしました。

次から事業戦略について、事業毎に詳しく説明いたします。

各事業戦略の進捗状況

	具体策	達成状況	今後の課題
飼料事業	北九州畜産工場建設	○	■ 新工場・設備へのスムーズな移行 ■ 設備増強は順調であり、それに準じて販売数量を増加させる
	加熱加工製品の製造設備強化	○	
	製造の効率化	○	
	原料コスト低減	◎	
食品事業	フィード・ワン フーズ設立	○	■ 市況に左右されにくい仕入・販売体制の構築 ■ ブランド生産物の販売拡大
	取引条件の改定	△	
	ブランド商品の開発	○	
海外事業	販売地域拡大	◎	■ 販売数量増加に伴う設備増強
	設備投資	○	

◎ = 達成 ○ = 取組中 △ = 遅延

16

こちらは中期経営計画で掲げました事業部門別戦略の進捗状況をまとめた表です。

各事業戦略については図の通り進捗しており、食品事業では一部遅延した取り組みもありますが、全体としては順調に進捗しております。

次より各事業の主な取り組みについてご説明いたします。

主な取り組み ～飼料事業～

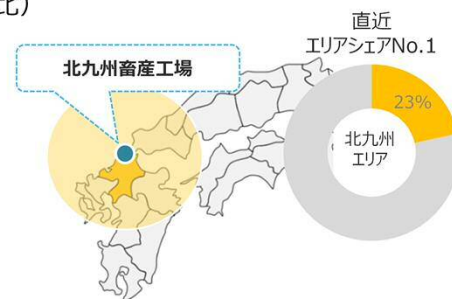
北九州畜産工場建設

進捗状況：出荷開始2020年7月を予定

老朽化した飼料製造子会社「門司飼料(株)」に代わり、最新鋭の畜産工場を建設

⇒ 生産効率14%UP（門司飼料(株)対比）

北九州畜産工場



【工場概要】

場所：福岡県北九州市
敷地面積：43,692㎡
製造能力：約40万トン／年
投資金額：約116.5億円

17

まず飼料事業においては「北九州畜産工場の建設」です。

出荷開始は当初計画より、東京オリンピックによる資材調達遅延などの影響から若干遅れましたが、7月より出荷を開始する予定でございます。

こちらは老朽化した飼料製造子会社「門司飼料(株)」に代わり、最新鋭の畜産工場を建設するものです。門司飼料と比較して、生産効率14%の向上が期待されています。

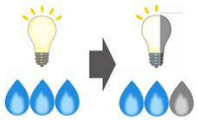
次のスライドで新工場の特徴をご説明いたします。

【参考】北九州畜産工場 ～SDGs対応の次世代工場～

◆ フィード・ワンが実現するSDGs対応の次世代 製造ソリューション



省エネ



- ✓ 工程別の電力量・蒸気量の徹底した管理と制御
- ✓ 発生するエネルギー量の当社比30%削減を目指す

IoT



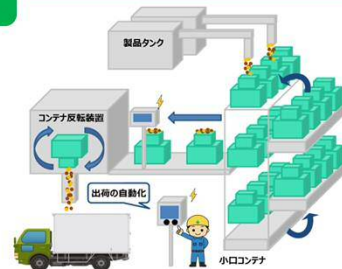
- ✓ 最新のインターネット受注システムを導入
- ✓ 顧客の注文作業軽減と在庫状況や製造・出荷まで管理

省人化



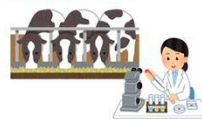
- ✓ 従来の工場設計を見直し作業エリアを1フロアに集約
- ✓ 作業性の効率化UPにより人員33%減に(門司飼料比)

自動化



- ✓ 最新の24時間無人自動出荷設備を導入し配送会社の待ち時間軽減と省人化を実現

品質



- ✓ 最新鋭の加工設備を導入し高品質の製品を安定供給
- ✓ トレーサビリティの徹底

18

北九州畜産工場には最新の設備を導入し、電力量・蒸気量を工程別に適切に管理することで、エネルギー量の30%削減を目指します。

最新の24時間無人自動設備を導入することや、従来の工場設計を見直し、作業エリアを1フロアに集約することで、門司飼料と比較して33%の人員削減を実現いたします。

また最新のIoT技術を導入することで、新工場は「人と環境に優しい次世代SDGs対応工場」となっております。

主な取り組み ～食品事業～

ブランド商品の開発は順調に進展

◆ コンシューマー向け新製品の発売

- 既存商品「国産豚白もつ」、「勝負のもつ煮込み」に加え、「やみつきホルモン(焼肉味、黒山椒味)」
- 「豚ギスカン」、「豚白もつ煮込用」を発売



年間を通じて安定的な販売可能に



◆ 銘柄豚の開発

- スケジュールを前倒し「瑞穂のみらい豚」を発売
- お米を中心とした専用飼料を給与することで柔らかくジューシーでさっぱりとした味わいの豚肉



【スケジュール】



19

続いて食品事業です。

食品事業は2018年7月より食肉事業の統合により誕生したフィード・ワンフーズ(株)における「ブランド商品の開発」について説明いたします。

まずコンシューマー向け新製品の発売の説明です。

前期に秋冬の鍋・煮込み需要が高い商品である「国産豚白もつ」「勝負のもつ煮込み」を発売しましたが、当期は春・夏に需要が高い焼き肉に適した「やみつきホルモン」、「豚ギスカン」を発売することで、季節変動を軽減し、年間を通じて安定的な販売が可能となりました。

次に銘柄豚の開発に関しましては、従来のスケジュールを前倒し「瑞穂のみらい豚」を発売しました。こちらはお米を中心とした当社の専用飼料を給与することで柔らかくジューシーでさっぱりとした味わいの豚肉となっております。

これらの取り組みにより食品事業として、相場に左右されにくい体質改善を目指します。

主な取り組み ～海外事業～

ベトナム

Kyodo Sojitz Feed Co. Ltd.

販売地域：北部、南部地域へ拡大

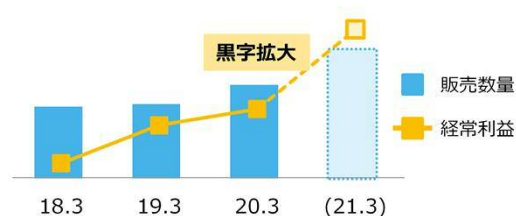
設備投資：設備投資により製造コスト低減

◆ 業績

- アフリカ豚熱流行で豚飼養頭数の20%以上が殺処分になり、主力の豚用飼料販売数量は減少するも、家禽・牛用飼料の発売でカバー
- 販売数量、収益ともに拡大

◆ 今後の取り組み

- 定期研修、商材拡大による営業力強化
- 工程自動化、出荷設備増強による生産効率の向上



インド

NIPPAI SHALIMAR FEEDS PVT. LTD.

販売地域：営業力強化により主要生産地へ拡大

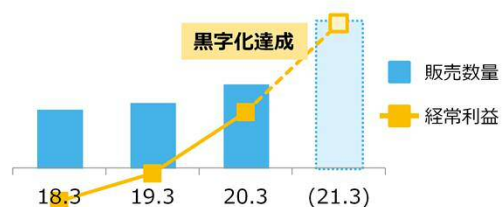
設備投資：来期に持ち越し

◆ 業績

- エビ用飼料の販売数量増加を中心に、販売数量は大幅に伸長
- 利益も創業以来初の黒字化を達成

◆ 今後の取り組み

- 大手エビ養殖業者への販売拡大
- 製造設備へ投資等により生産性と強みである品質の向上に取り組む



20

最後に海外事業です。

ベトナム、インドともに「販売地域拡大」を達成し、「設備投資」は一部延期したものの全体としては進捗いたしました。

ベトナムではアフリカ豚熱が流行し、殺処分により飼養頭数が激減したことにより飼料需要も減少しましたが、家禽用や牛用飼料を開発、発売することで、数量をカバーし、収益も伸長しました。

今後の取り組みとしては、引き続き営業力を強化するために定期研修や商品数を拡大することと、設備投資により生産性の向上を目指します。

インドではエビ用飼料を中心に数量が伸長し、創業以来初の通年黒字化を達成しました。

今後の取り組みとしては、大手エビ業者への販売拡大と設備投資により生産性と品質の向上に取り組むことにより、さらなる増益を目指したいと考えております。

2021年3月期 業績予想

21

続きまして、2021年3月期の業績予想を説明いたします。

2021年3月期 業績予想

畜産・水産飼料の販売数量増により増収も 減価償却増により微増益を予想

(百万円、%)

	2020.3期		2021.3期		
		構成比		構成比	前期比
売上高	215,050	100.0	226,400	100.0	+ 5.3
売上原価	191,401	89.0	202,000	89.2	+ 5.5
販管費	18,234	8.5	18,800	8.3	+ 3.1
営業利益	5,414	2.5	5,500	2.4	+ 1.6
経常利益	5,737	2.7	5,800	2.6	+ 1.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,842	1.8	4,000	1.8	+ 4.1
設備投資	7,934	-	7,270	-	▲ 8.4
減価償却費	2,513	-	3,195	-	+ 27.1

※前提：飼料安定基金積立金は500円/トと想定

22

2021年3月期の畜・水産飼料は2020年1-3月販売価格・同原料代をベースにしております。

また、飼料安定基金積立金は500円/トンを前提に予想数字を作成しました。

売上高は畜産・水産飼料の販売数量増加予想により、前期比+5.3%増加し2,264億円、北九州畜産工場竣工により減価償却費が増加し、営業利益は55億円、経常利益は中期経営計画の55億円から+3億円、前期比+1.1%増加し58億円となる見込みです。

2021年3月期 セグメント別予想

(百万円、%)

		2020.3期	2021.3期			
				前期差	前期比	コメント
飼料事業	売上高	162,525	169,800	7,274	+ 4.5	販売数量増加を予定し増収 利益は設備投資増加により微増
	セグメント利益	7,028	7,100	72	+ 1.0	
食品事業	売上高	49,791	53,900	4,110	+ 8.4	販売数量増加と高利益商品拡売等により増収増益
	セグメント利益	393	600	206	+ 52.2	
その他	売上高	2,733	2,700	▲ 34	▲ 1.3	資材関係の減収減益
	セグメント利益	361	200	▲ 161	▲ 44.6	

販売数量	2020.3期	2021.3期		
			前期比	コメント
畜産飼料	348万ト	351万ト	+1%	牛用+1%、豚用+3%、ブロイラー用+3%、採卵鶏用▲2%
水産飼料	9.7万ト	10万ト	+3%	海産魚用+3%、淡水魚用+3%

23

続いてセグメント別予想です。

まず飼料事業ですが、下の表をご覧ください。

畜産飼料の販売数量は前年比+1%増加し351万ト、水産飼料は前年比+3%増加し10万トを予想しております。

なお、水産飼料が前期の+14%から伸び率低下を予想しているのは、水産物相場が下落し、生産調整が起こると想定したためです。

この販売数量増加により売上高は前期比+4.5%を予想しておりますが、利益については減価償却費の増加により+1.0%にとどまる見込みです。

食品事業は、販売数量増加と高利益商品拡売などにより、増収増益となり、セグメント利益は+52.2%と大幅増益の計画となっております。

その他事業は、主に畜産用資材の販売ですが、仕入原価の増加などにより減益を見込んでおります。

株式関連事項

24

続きまして、株式関連事項につきまして、お知らせいたします。

株主還元

20年3月期は5円へ増配を予定

【第2次中期経営計画株主還元方針】

当社は株主への利益還元として「配当」を重視しております。安定した配当を基本とし、企業価値向上に向けた基盤強化の為に「設備投資」「研究開発」「人材育成」に積極的な投資を行いながら、連結配当性向25%以上を目標といたします。



（※1） 19.3期 関西工場跡地売却に伴う特別損益1,681百万円、更に税金等控除後配当性向26.2%

（※2） 21.3期の1株当たり配当、EPSについては20.3末の発行済株式数で算出

25

まずは株主還元についてです。

当社は、株主の皆様への安定的な利益還元を重視しつつ業績に対応した配当を行うことを基本とするとともに、長期的な経営基盤の維持・強化を図る方針です。

すでに社外発表させていただいておりますが、2020年3月期の利益配当につきましては、業績が大幅に計画を上回る結果となったことから、直近の予想より50銭増配し、1株当たり5円を配当することとしました。

以上のことから2020年3月期における配当性向は25.6%となる予定です。

トピックス ～株式併合・中間配当のお知らせ～

株式併合

- ◆ 売買単位変更日：2020年10月1日 ※1
(※1) 2020年9月30日終値の5倍が10月1日の基準値となります

- ◆ 併合の割合



- ◆ 併合による影響（1,000株保有の場合）

	株式併合前	株式併合後
保有株式数	1,000株	200株
議決権数	10	2

中間配当

- ◆ 中間配当開始：今期（2021年3月期）より
- ◆ 今期の配当予定：中間配当：2.5円、 期末配当：12.5円 ※2
(※2) 株式併合を考慮しない場合の2021年3月期（予想）の1株当たり期末配当金は2.5円となり、1株当たり年間配当金は5.0円となります

26

こちらもすでに発表しておりますが、株式併合についてお知らせいたします

現在当社の株式数は、事業規模や同業他社の状況から見て非常に多い状態にあると考えております。

現状の株価水準も、東京証券取引所の有価証券上場規程において望ましいとされる投資単位の範囲を大きく下回っており、1円当たりの株価変動率も相対的に大きく、投機的対象として大きな株価の変動を招きやすい状態となっていることから、一般投資家の皆様への影響は小さくないと認識しております。

このような状況を踏まえ、第6期定時株主総会においてご承認を得ることを前提として、2020年10月1日より5株を1株へ株式併合を実施することとしました。

また、今期より中間配当を開始することといたしました。

今期の配当予定は中間配当2.5円、上記株式併合を経ることで、期末配当は12.5円を予定しております。

最後に

私たちの使命は皆様の食卓に安心・安全な「食」を安定的にお届けすることです
これからも社会と共に発展を続けるべく邁進いたします



27

最後となりましたが、フィード・ワンの使命は、皆様の食卓に安心安全な「食」を安定的にお届けすることです。

新型コロナウイルス流行による困難な状況は続きますが、このような状況下だからこそ、必ず必要とされている「食」を守るために、当社が「食のバリューチェーン」の中で果たすべき役割や責任が重いことを改めて心に刻み、しっかりと社会的な責任を果たしてまいります。

当社は、引き続きグループ一丸となってさらなる成長と将来の飛躍を実現すべく、全ての事業において積極的に取り組んでまいります。

皆様におかれましては、今後とも末永くご支援を賜りますようお願い申し上げます。



おいしさのみなもと

FEED ONE

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましてはこちらまでご連絡ください。
info@feed-one.co.jp

28

以上をもちまして、2020年3月期の決算説明を終了いたします。

ご視聴、誠にありがとうございました。

參考資料

飼料事業の取り組み

加熱加工製品の製造設備強化は順調に進展

- 加熱加工製品とは蒸気をかけ、消化・吸収率を向上させた飼料で近年、鶏・豚用飼料で需要増加しつつある
- 背景として効率的な飼料給与、消化・吸収率向上のニーズの高まりや出荷日数の短縮による栄養要求量の上昇がある

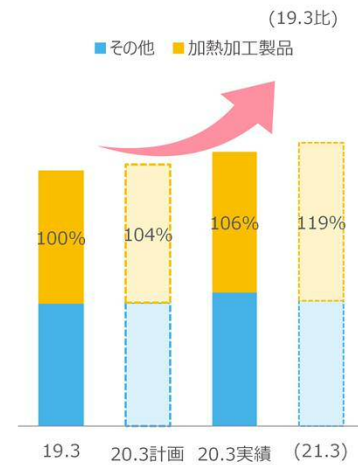


◆ 加熱製品設備増強計画

鹿島工場、東北飼料、志布志飼料 計3工場
合計生産能力18.3時点520千トン→21.3時点630千トン

◆ 計画通り設備強化し、加熱加工製品出荷数量増加

3工場の加熱加工製品生産数量計画



飼料事業の取り組み

製造の効率化はほぼ計画通り進捗

◆ 製造ライン増設等新しい設備導入

- 製造ライン・タンク等増設を進める
- 中計計画：7工場
- **進捗**：実績4工場

(状況の変化に対応し、一部延期を行った)

◆ 製造システムの更新

- 計画通り製造関係システムを更新
- 中計計画：3工場
- **進捗**：実績3工場

(計画外の工場も更新)

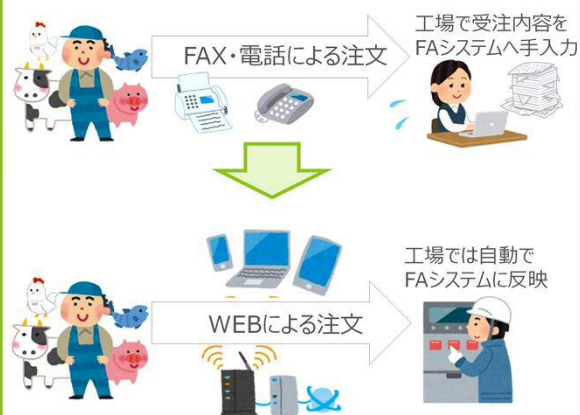
◆ 水産飼料製品数の集約

- 中計計画：製品数31%削減
- **遅延**：実績17%削減

(顧客対応により一部製品数増加)

製造システムの更新～WEB受注システムの導入～

- 従来の電話・FAXでの受注をWEB受注に変更したことにより、省力化、ヒューマンエラーリスク削減



飼料事業の取り組み

原料コスト低減は順調に進捗

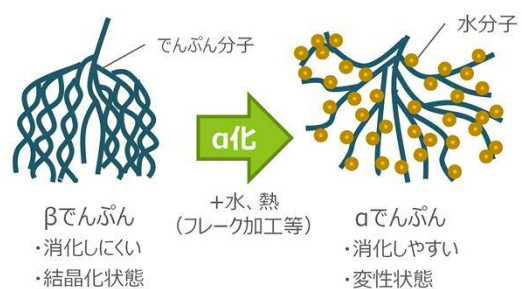
◆ 原料コスト低減総額：20.3期 **481百万円/年**（計画比+48%）

➤ 取り組み例（産地多様化：ブラジル産とうもろこしの使用拡大）

- ・ ブラジル産とうもろこしはα化が十分にできない等フレーク加工に不向きであったが、近年、ブラジルでの増産により価格メリットが増加
- ・ 研究所で試験を重ね、工場毎のブラジル産とうもろこし使用スキームを確立
- ・ ほぼ全工場でブラジル産とうもろこしをアメリカ産と同等にα化したフレークへの加工が可能に



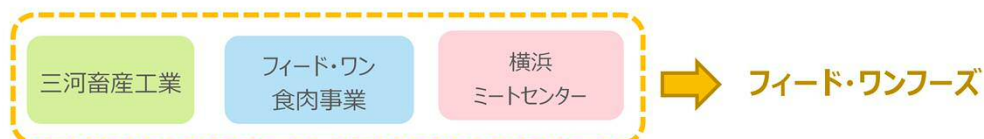
	アメリカ産とうもろこし	ブラジル産とうもろこし
粒	大	小
でん粉層	側面	全面
α化	○	△



食品事業の取り組み

フィード・ワンフーズ^(株)を設立するもシナジー効果発現には遅れ

- ◆ 豚肉事業を統合し、効率的な経営を行うことを目指し、
2018年7月 フィード・ワンの食肉事業と関係会社2社を統合してフィード・ワンフーズ^(株)を設立
- ◆ 計画通り設立したが、豚の疾病（CSF：豚コレラ）や新型コロナウイルスの流行等といった想定外の事象が続き、統合効果は計画を下回った



取引条件の改定は遅延

- ◆ 豚肉の仕入れ販売において、相場変動リスク低減を目的として取引条件改定を進めるも遅延

